

霞台クリーンセンターみらいへのごみ処理場の移行に伴い  
**令和3年4月から** ごみの収集区分が変わります！

令和3年4月から本町のごみ処理場が、「霞台クリーンセンターみらい」に移行されることに伴い、**ごみ処理の区分が一部変更**となります。

令和3年4月からのごみ処理区分については下表のとおりとなりますので、皆様のごみの適正処理および、資源化へのご協力をお願いします。

なお、今年度中に「**ごみの出し方ガイドブック**（1月中旬）」と「**令和3年度ごみカレンダー**（3月中）」を配布する予定ですので、詳しくはそちらをご確認ください。

■ **今までどおり出せるごみ**

分別の種類	ごみの種類（代表例）	出し方
燃やすごみ※	紙くず・プラスチック類 貝がら・ゴム類 など	茨城町指定ごみ袋に入れてください。 不燃物などを混入しないでください。
カン・金属	空き缶・傘・鏡 小型家電製品 など	コンテナに入れてください。 コンテナに入らないものは粗大ごみで出してください。
びん	無色	牛乳びん・ワンカップ など
	茶色	ビールびん・栄養ドリンク など
	その他	青・緑・黒色のびん など
ガラス陶磁器	茶碗・コップ・花瓶 せともの・板ガラス など	コンテナに入れてください。 びん以外のガラス製品や陶器類のみ出してください。
ペットボトル	飲料水などのペットボトル	コンテナに入れてください。 キャップとラベルを外し、軽くすすいでください。
古紙	新聞・段ボール・雑誌 など	新聞・段ボール・雑誌の種類ごとに分けてください。 種類ごとにひもで縛るなど、風で飛ばないようにしてください。

※「燃えるごみ」から「燃やすごみ」に表記が変わります。

コンテナのサイズ  
 外寸 53×37×31 cm程度。色の指定はありません。

■ **出し方が変わるごみ**

分別の種類	ごみの種類（代表例）	これまでと変わった点・出し方
粗大ごみ	ストーブ・自転車・ガスレンジ ベビーカー・座いす など	【変わった点】 これまでは不燃性のごみのみが対象でしたが、 <b>可燃性のごみ（指定袋に入らない大きさのごみ）も粗大ごみとして出すことができるようになります。</b> ※粗大ごみとして出せるものは45cm×45cm×120cm以下のものに限り、それ以上の大きさのごみは直接持ち込みとなります。 【出し方】 捨てるものに粗大ごみのシール券を貼り付け、ごみ集積所に出してください。
有害ごみ【新設】	蛍光管・電球・乾電池 水銀式体温計・ライター など	【変わった点】 水銀汚染防止法が制定されたことから、環境に配慮するために「 <b>有害ごみ</b> 」の回収日を新たに設けます。 【出し方】 左記のごみについては、「有害ごみ」として <b>透明な袋で包んだうえで、コンテナに入れて</b> 出してください。
古布【新設】	古着などの布製品	【変わった点】 古布は今まで「燃えるごみ」としていましたが、資源を大切にすることを目的に「 <b>古布</b> 」の日を新たに設けます。 【出し方】 中身が分かるように <b>透明な袋に入れて</b> 出してください。 ※濡れや汚れがひどいものは「燃やすごみ」で出してください。

【問合せ先】 みどり環境課 ☎029-240-7135（直通）

**みんなでチャレンジ！ 農業体験**

町内の各小・中学校では、地域の農家の方の指導のもと、農作物を育て収穫する農業体験を行っています。貴重な体験をした児童や生徒たちの感想をご紹介します。

【問合せ先】 学校教育課 ☎029-240-7121（直通）

機械と手作業の違い

葵小学校 五年二組  
 富山翔麻



この後、ぼくたちがつくったお米を試食するので、どのような味がするのかとても楽しみです。きつと人々の苦勞が深まったが、おいしい味がたまらないです。

ぼくは、学校で米づくりを体験しました。この体験を通して感じたことは、手作業で米をつくる大変さです。ぼくのおじいちゃん、田んぼを多くもっているの、代かき・田植え・稲刈り・乾燥・もみすりをすべて機械で行っています。手作業で行うと時間がかかったり、腰が痛くなったりするなど、体への負担がとても大きくなると分かりました。しかし、手作業で稲をおだ干しすると、機械で行うよりお米がおいしくなるとブライトリダーの先生に聞いたので、手作業で苦勞する意味があるんだなと思いました。



農業体験を振り返って

明光中学校 一年五組  
 佐藤元哉



農業体験を振り返って、農家の方たちの苦勞を知りました。僕たちは、苗を植えるだけでしたが、これだけの作業でも畑がとても広いので、一人だけでは大変な苦勞だと感じました。それに、植えた後も一つ一つの苗の管理をていねいにするので、すごいなと思いました。農業体験を通して、自分の考えが変わりました。農家の方たちが苦勞して一生懸命頑張ってくれたおかげで毎日おいしい野菜が食べられるんだと思います。このことをきっかけに、好き嫌いをなくせるように頑張りたいです。



農業体験

青葉中学校 一年二組  
 宇野佑香



私は、農業体験（サツマイモの収穫）をして次の二つのことを学びました。一つ目は、イモづるの量とそこに実っているイモの個数には関係がある、と思ったことです。イモづるが多いと実っているイモの個数も多く、少ないとイモの数も少ない気がしました。小学校の時のイモ掘りでは、イモ掘り前に農家さんがいつもイモづるを全て切ってくださいしていました。イモづるがついたまま収穫するのは、今が初めてだったので、そんな発見をすることができました。二つ目は、マルチシートを残さずに取り除くのは、難しいということです。マルチシートは、土に深く埋まっているので、取り除こうと引っ張ると伸びてちぎれてしまいます。しかし、最後には友達と協力してきれいに取ることができました。今回の農業体験を通して、サツマイモの魅力や協力することの大切さを学ぶことができました。このことを、今後の生活に生かせるようにしていきたいです。